

## 目次

はじめに i

## I 司法通訳とはどのような仕事か

1

- 1 司法通訳の制度 (11)
- 2 「第一言語」とは何か? (15)
- 3 通訳の正確性と公平性 (26)

## II プロフェッションとしての司法通訳

47

- 1 言葉の「置換」か「解説」か (50)
- 2 現場における通訳人の任務 (51)

- 3 留置施設における国選弁護人の通訳 (58)
- 4 検察官の通訳 (60)
- 5 法廷における通訳 (63)
- 6 公判の通訳と捜査の通訳との違い (66)
- 7 捜査実務側が求める通訳人の在り方 (68)
- 8 法廷側が求める通訳人の在り方 (71)

### Ⅲ 来日外国人犯罪、刑事手続きの現状

- 1 起訴前手続きの特色と「接見同行通訳人」の重要性 (77)
- 2 刑務所イメージと勾留 (84)
- 3 「反省」とリハビリテーション (91)
- 4 我が国における刑罰の持つ象徴的な役割 (94)

## IV 司法通訳人に法律知識は必要ないのか？

101

- 1 法律知識教育の必要性 (102)
- 2 分かり合えない感覚 (106)
- 3 法律用語の理解と齟齬 (108)
- 4 「相互の信頼感」がもたらす影響 (112)
- 5 法の背景にある文化の複雑さ (120)
- 6 司法通訳人に求められること (123)

## V イメージの違い、厳密な通訳に必要なこと

125

- 1 我が国の刑事司法は「異色」か？ (126)
- 2 ステレオタイプからの脱却 (128)
- 3 「正義」の違い？ (133)
- 4 「警察官」・「検察官」イメージの隔絶 (136)
- 5 「真実」は一つ？ (137)

## VI グローバル化する社会と司法、 司法通訳の能力向上のために必要なもの

141

- 1 『法廷通訳についての立法提案に関する意見書』(142)
- 2 法廷通訳人に求められるべき「質」——日米の違い(151)
- 3 米国法廷通訳人に求められる通訳能力(159)
- 4 警察・検察・裁判所をつなぐ試み(162)
- 5 グローバル化が刑事司法・要通訳事件に与える影響(165)
- 6 本書の結びにかえて(167)

注  
170

主要参考文献  
185

あとがき  
189